



2年次理数科課題研究

課題研究発表会

2月14日(火) 1~6校時

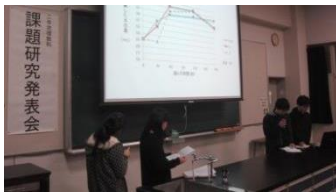
昨年3月の課題研究オリエンテーションから始まった一年間にわたる研究成果の校内発表会が理科講義室で行われました。理数委員が司会・時計係を務め、19班が研究発表をすると共に聴衆側の生徒との質疑応答など活発な発表会となりました。また、講師として宮城教育大学理科教育専攻教授の出口竜作先生をお招きし、各班への具体的な講評と、これからも様々な場面で研究を進めて行くにあたっての貴重な指針をいただきました。課題研究はこのあと、論文集の発行と、代表2班は3月3日(金)仙台市民会館大ホールで行われる「宮城県高等学校理数科課題研究発表会」での発表があり、3月17日(金)には全班による1年次生へのポスター発表会があります。



校長先生の挨拶に始まり・・・



出口竜作先生の講評

←各班の発表の様子・
質問も多数出ました

プレゼン作成ガイダンス

1月17日(火) 7校時

講義「これから研究発表をする高校生のために」

東北大学大学院生命科学研究科 准教授 酒井聡樹先生



12月に行われた「論文の書き方ガイダンス」に引き続き、東北大学 酒井聡樹先生に研究発表に向けての講義をしていただきました。今回の講義内容は

1. わかって貰おうという意識を持つ
2. わかりやすい研究発表のために心がけること
3. わかりやすいスライドの作り方
4. スライドの雛型 の項目についてです。

前回同様、具体例を挙げながらのお話と、分かりやすく見やすいスライドでの講義は大変参考になりました。酒井先生は校内発表会にもお越しいただき、全ての発表を聴いて下さいました。

《生徒の感想より》

- * 論文の文章とプレゼンの文章は全く違うものであると深く感じた。聴衆は冷たい存在というのは今まで気づかずにいた。
- * 自分の話を聞いてくれるという甘えを断ち切り、聴衆に対し分かりやすい発表にしようと思った。そのためにスライドに書く言葉を吟味し、見やすさ一番に仕上げたいと感じた

1年次理数科LHR 「プロフェッショナルトーク@理数科」

1月19日(木) 5校時

1月19日(木)5校時の理数科LHRでは、各分野で活躍されている4名の“プロ”をお招きし、仕事をすることの意義や実際の仕事の内容ややりがい、その仕事に就くために必要なことなどをお話ししていただきました。生徒は希望する分野を聴講し、働くということへの理解を深め今後の進路や学習への姿勢などを考える機会となりました。

各分野に参加した生徒の感想文(抜粋)を紹介します。

大塚製薬株式会社 人事部 課長 出来 加奈子 氏



*パソコンやインターネットではわからない知識をたくさん学ぶ事ができた。その仕事のプロであるからこそ

の考え方や仕事への誇りが伝わり、自分も誇りを持てる仕事ができたら良いと感じた。仕事の分野はあっても、世界中の人々の助けになることを目指す仕事はカッコいいなと思った。新しいものを生み出すのは難しいことでもやりがいのあることだと思った。

仙台うみの杜水族館 魚類チーム 生物博士 荒川 美緒 氏



*小さいときから夢は水族館の飼育員になることなので貴重なお話を聴くことができ嬉しかった。実際の仕事の

説明から先生の仕事へのやりがいを感じた。飼育もしながら研究もすると聞いて驚いた。将来後悔することのないように今のうちから頑張り、今出来ることを一つ一つ確実にやっていきたい。*「勉強は嫌でも、自分の未来を広げると思えばいい!」という言葉が心に残りました。

株式会社NTTドコモ仙台支社 金田 直子 氏



*おもしろい先生で苦手な分野だったが理解を深め、SEという仕事の印象が変わった。自分のしたい仕事が見つからず、大学もなんとなくしか決めていないので、まずは仕事を知

ることを始めたい。先生は大学で生物学を学んでからSEになったということで、分野転換はいつでもしていいのだと思った。理系といっても沢山の種類があるので、何にでも挑戦して自分のしたい仕事を見つ

仙台市都市整備局 市街地整備部 田原 香織 氏



*今まで建築とは家や建物を設計するというイメージだったが、設計するだけでなく使われなくなった建物を資源として活用し、まちづく

りに貢献していることが分かった。進路を選択する上で視野に入れてみようと思った。

*土木分野に興味があり、大学・大学院での生活やどのような仕事があるのかを知る機会になった。建築関係の仕事は頑張りか形に残り、相手にも喜んでもらえるので素敵だと思った。